

活動報告

団体名	一般社団法人 日本インターナショナル・サポート・プログラム
活動名	宮城県大郷町での被災者見守り・つながりづくり及び障がい児施設の再開支援
活動期間	2019/11/01～2020/6/30
活動の成果	<p>本活動は、宮城県黒川郡大郷町において地元行政、社協、被災コミュニティとの連携により、仮設住宅居住者や在宅被災者の見守り、健康増進、つながりづくりや、障がい児福祉施設の仮施設での運営支援を行うことを通じて、被災者の生活再建に寄与することを目的とした。仮設住宅に移転した被災者は被害が大きかった中粕川地区で自宅を被災した住民が主だったものの、その他の複数地域の被災者が移転してきたため知り合いがいなかったり、個別のニーズを抱える被災者も多かった。12月に開始した毎週のお茶会では新たな交流が生まれ、隣人同士の付き合いや助け合いのネットワークが生まれた。特に高齢の被災者は社交の機会が少なかったため、毎週のお茶会を楽しみにしてくださる方が多かった。お茶会では一緒にお茶を飲んで交流するだけではなく、歌や踊りを取り入れたり、将棋や囲碁、縄投げなどのアクティビティを取り入れ参加者が活動を選べるよう工夫した。3月以降はウイルス拡大防止のためにサロン活動は控える方針になったものの、社協と現地コーディネーターが感染対策に配慮しながら住民への声かけや傾聴を行い、住民の健康状態を確認したり支援を必要としていないかなどをモニタリングすることができた。またコロナ禍でも実施できる健康増進と交流のための活動として農作業を取り入れたところ、この活動を通じて今まで知り合うことのなかった住民同士が交流したり、若い世代がご高齢のベテランから農業について学び、互いに助け合うなどの姿が見られた。</p> <p>また障がい児福祉施設「めるくまーる」では、狭い仮施設で子どもが十分に動き回ってストレスを発散することが難しかったために、専門家が子どもの心身の発達を促すアクティビティ等のワークショップを行った。「被災後に子どもたちがこんなにいきいきする姿を初めてみた」と職員からも好評であった。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>事業期間中には、被災者がやっと仮設住宅での暮らしに慣れ始めた頃に新型コロナウイルス感染症の拡大が起きてしまい、支援を必要とする被災者に支援者がアクセスできないという大変困難な状況が生じました。そのような状況下でも当団体は町役場や社協との協力により形を変えながらも支援を継続することができ、事業の目的を果たすことができたものと考えております。今回のご寄付により多くの被災者に有用なサポートを提供することができ大変感謝しております。本事業に対してご理解を寄せご寄付を頂き、誠に有り難うございました。</p>

(活動のようす)

